

別れの涙が 友情の証

南国市女子中学生バレーボール韓国交流

南国市内の四中学校から選ばれた選手により構成された、南国市女子中学生バレーボール交流団が、八月八日より四泊五日の日程で韓国を訪問。安養市の大安女子中学校のバレーボールチームとの交流試合や民俗村、ソウル市内の見学などで韓国の選手たちとの友情や韓国への知識を深めるなど大きなお土産を持って帰ってきました。

1日目

一路ソウルへ

交流団は八月八日、高知空港を出発、福岡で出国手続きをした後、釜山経由で一路ソウルへ。ソウルの金浦空港には午後五時に到着。さっそく空港で大安女子中学校の選手たちの出迎えを受け、旅の疲れも異国にきた不安も吹き飛びました。ホテルがソウル郊外にあり、移動の途中で食事をとったこともありホテルに着いたのは午後八時になりましたが、明日の試合に備えてミーティングを行い一日目を終えました。

2日目

交流試合が 友情を

九日は今回の訪問の目的である、大安女子中学校とのバレーボール交流試合が行われました。大安女子中学校のある安養市はソウルから車で二時間足らずの距離にあり、ソウル市内の地価の急騰から最近ベッドタウンとして市内のあちこちでアパートが建築中で、やたらとほこりっぽいのですが、これからの発展が予想される都市。

試合は市内中心部に近い小学校の体育館で行われ、まず、安養市教育長らが「この試合

を通じて友好を深めてほしい」とあいさつした後、試合が開始されました。日本では中学生の試合球は四号球ですが韓国は五号球ということで、第一試合は五号球、第二試合は四号球を使用。慣れないボールと緊張感から第一試合の第一セットを簡単に取られ、そのまま負けてしまふかと心配されましたが、第二セットに入ると次第に動きが良くなり、結局第二、第三セットを連取し逆転勝利。一試合目の勝利で緊張も解け、第二試合は完全に南国市選抜チームのペースで進み、交流試合は南国市チームが二連勝を納めました。

試合後の夕食会では両チームの選手が仲良く食事を取り、言葉は通じなくても身振り手振りや昼間の試合の健闘をたたえあい、すぐに心は通じた様子。練習してきた鳴子おどりを披露すると、さっそく大安女子中の選手たちもおどりの輪に参加して、帰りぎわには別れがつかくなるほどまでに打ち解けていました。

3日目

韓国への 知識を深め

三日目は視察観光。まず、昨年、一昨年とサッカー交流を行った安山市に向かい、今回の韓国訪問でもお世話になった、南国市のミロク機械との合併会社コリアミロクを

訪問し工場見学。続いて安山市教育庁を表敬訪問した後、民俗村を見学しました。民俗村は日本の明治村みたいなもので、広大な敷地に朝鮮時代の生活様式をそのまま再現した家屋が整理されており、韓国文化生活事情を学ぶには最適な場所。ガイドさんの説明を聞きながら韓国の歴史を学びました。

4日目

深まった友情

四日目は市内観光を行い、オリンピック競技場や遊園地ロッテワールドの見学。土産品販売所では家族や友だちへのお土産選びに一生懸命、気に入ってもらえるだろうかと迷う姿も。

この日の夕食は大安女子中学校の生徒も招待されており、先日の夕食会で友だちになった生徒たちとの再会に皆うれしそう。食事が進み話もはずむうちに別れの時間が近づき、最後に大安女子中学生とともに「蛍の光」を合唱すると、

明日の別れを思い手を握り、涙を流して別れを惜しむ生徒たち。短い交流期間にもかかわらずこれほどまでに友情が深まったことに、今回のスポーツ交流の爽りの大きさが現れています。

5日目

別れの涙を 大切に

五日目はとうとう帰国の日。やっと高知に帰れるという安ど感と、友だちになった大安女子中学校の生徒たちとの最後の別れという寂しさで複雑

な思いの生徒たち。空港で見送りに来た生徒たちを見つけると、やはり涙が込み上げてくるよう出発ロビーに入るまで振り返り振り返り、手をふり続け別れを惜しみました。

この後、大阪を経由して無事に高知に到着。お土産も買ってきましたが、今回の訪問で韓国の人たちの思いやりの心に接し、友情をつかんだことが何よりの自分自身へのお土産になったことでしょう。この友情をいつまでも続けてほしいものです。それが、このスポーツ交流の目的であり、成果なのだから。



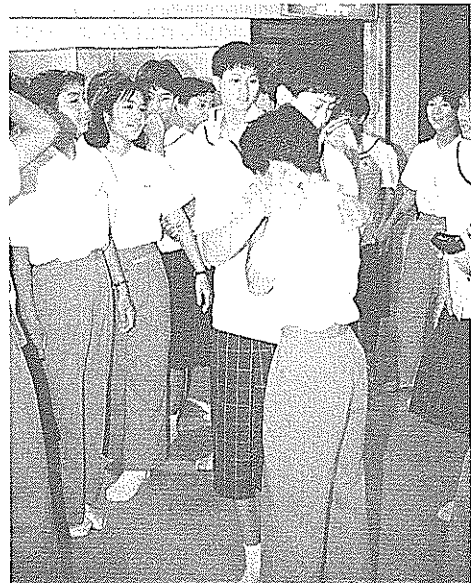
韓国バレーボール交流団

団長	矢野 仁	(香長中校長)	
総監督	岩河 章	(蔦ヶ池中教諭)	
監督	山中 一仁	(香長中教諭)	
コーチ	小野 博三	(香南中教諭)	
"	豊永 信子	(北陵中教諭)	
養護	池島千恵子	(香南中教諭)	
顧問	浜田 一雄	(南国市助役)	
"	栄枝 利實	(南国市教育長)	
主将	松崎沙由子	(香長中)	
土居 光	(香長中)	蛟島 結香	(香南中)
小松 加奈	(")	有沢 千春	(")
澤本 知佐	(")	北岡 真由美	(")
森国 和枝	(")	秋山 真奈美	(蔦ヶ池中)
土居 奈央	(")	松村 有香里	(")
鍋島 瞳	(")	西田 幸世	(北陵中)
岡崎 奈緒子	(香南中)	田村 富愛	(")

韓国への旅を 一生の思い出に

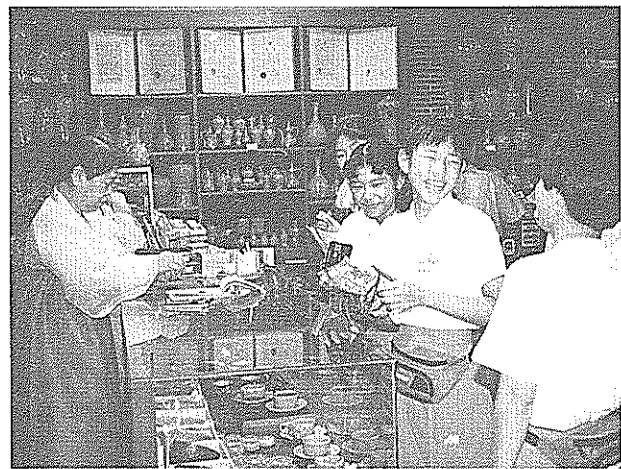


遊園地ロッテワールドで記念撮影



最後の晩明日の別れを思い、泣き出す生徒。

安山市の教育庁を訪問すると、昨年サッカー交流で南国市にやって来た元谷中の生徒が元気な姿を見せてくれました。



旅に出ればお土産選びも楽しい一時

市長選挙

立候補予定者説明会・9月17日(火)
午後1時30分～ 市役所4階第1会議室

市議会議員選挙

立候補予定者説明会・9月9日(月)
午後1時30分～ 市役所4階大会議室



試合後の夕食会で鳴子踊りを披露すると、さっそく大安女子中の選手たちも踊りの輪に加わり、仲良く共演。



交流試合を終えてユニホームを交換し互いの健闘をたたえ合う選手たち。試合が終わるとすぐに友だちになれるのがスポーツ交流のよさ。

韓国の親善バレーに参加して



矢野仁団長

(香長中学校)

高知空港を発ち、福岡、釜山を経由してソウルに到着した。空港のロビーには大安女子中学校の先生方や生徒たち、バレーボール協会の方々の手厚い歓迎を受け、団員一同たいへん感激した。

空港でのセレモニーを終え、いざホテルへと移動用のバスに乗ったところ、バッテリーの故障でバスは動かない。もちろんクーラーもきかない。結局一時間ほど遅れて出発することとなるが、こんどは道路に放置されている自家用車のためバスがなかなか動かない……といった状況で、これはたいへんなところに来たなど、先を心配したことである。

さて、親善バレーの試合であるが、韓国では中学校で五号球、小学校で四号球と日本より一号大きい球を使っている。

第一試合は五号球で、第二試合は四号球で行うことになり、九日午前十時に試合が開始された。南国チームはボールの違いもあり第一セットを取られだめかなと思ったが、次第にボールや雰囲気にも慣れ、本来のリズムを取り戻し、熱戦の末第一試合をもにすることができ、午後の第二試合は常時南国ペースで試合を進め、二試合とも勝利を収めることができた。

また経験の浅い、しかも練習の相手さえいないという大安女子中学校のバレー部であるが、スパイク、レシーブの技術などすばらしいものを持っている。また、活発な行動や、試合におけるマナー、選手の表情、応援する生徒たちの姿勢など、日常から指導に取り組んでおられる先生方

の熱心な指導ぶりが感じられた。とにかく子どもたちは明るくいきいきとして、私たちは伸びている」という感じを与えられた。

わずか一日のバレーの試合であったが、子どもたちが得たものはたいへん大きい。肩を抱き合って別れを惜しむ子どもたちの姿、言葉は通じないが「ありがとう」「さようなら」を繰り返しながら心は通じていた。

大安女子中学生の優しくて明るい笑顔が韓国の将来を物語っているように思える。この子どもたちとの交流の糸を南国市内中学校として大切にしたいものである。

最後に初めて韓国を訪問し、スポーツを通じて韓国の文化、社会情勢、人情等たいへん多くの内容を子どもたちともて得ることができました。こうした機会を与えていただきました南国市に感謝するとともに団員の皆さんのご協力によって無事帰国できましたことをありがたく厚くお礼申し上げます。